

令和元年度

しも おさ かん いち

下總皖一 音楽賞募集

「作曲家」「音楽理論家」「音楽教育家」として

日本近代音楽の基礎を作ったといわれる

埼玉県出身の偉人、下總皖一。

その精神を受け継ぐ、県にゆかりのあるプロの音楽家の方を表彰します。

素晴らしい音楽家の推薦をお待ちしています。

募集期間

令和元年

6月24日(月)

~9月20日(金)

お問合せ

埼玉県県民生活部文化振興課
【下總皖一音楽賞担当】

TEL : 048-830-2887

FAX : 048-830-4752

下總皖一音楽賞

検索

音声コード (SPコード)



活字文書読上げ装置で
情報を音声で聞くことができます。



日本近代音楽の基礎を作った 「音楽家」下總皖一の業績

(1898～1962)

作曲家としての下總皖一

「たなばたさま」「花火」「野菊」「ほたる」などの曲は、下總皖一の曲として有名ですが、氏の作曲分野は極めて幅広く、合唱曲・器楽曲・協奏曲や校歌など、多岐にわたっています。

また、箏の曲、三味線の曲など日本の伝統音楽についても作曲し、その数2,000曲とも3,000曲とも言われています。



〈晩年の愛用ピアノ〉

音楽理論家としての下總皖一

昭和9年(1934)、ドイツ留学から帰って、翌10年に著した理論書「和声学」は、ドイツでの恩師パウル・ヒンデミットから称賛されました。

その後次々と理論書を著し、「作曲法」「日本音階の話」「作曲法入門」「楽典」「音楽理論」「対位法」など日本の近代音楽の基礎を作ったとされています。

「和声楽」の神様とも言われています。



音楽教育家としての下總皖一

東京音楽学校を首席で卒業した下總皖一は、各地の学校で教鞭をとりました(女子師範学校・各地の師範学校・小学校・女子高等師範学校など)。

また、留学から帰国後は母校東京芸術大学(当時東京音楽学校)で教鞭をとり、昭和31年に音楽学部長に就任。数多くの素晴らしい音楽家を育てました。

